



ガバナーメッセージ 水と衛生月間

国際ロータリー
第2660地区 ガバナー

立野 純三
(大阪RC)



2014年10月RI理事会は、3月を重点分野である『水と衛生月間』としました。

日本では、透明で清潔な飲み水を毎日飲めるのは当たり前のことかもしれませんが、世界では約6億6300万人以上の人々が安全な飲料水を飲むことが出来ず、約24億人の人々が衛生的なトイレを利用することが出来ません。さらに、不衛生な衛生習慣は、下痢疾患を招き、脱水症状から、毎日3000人近くの子供が命を落としていると言われていています。子供達にとって「水」は重要な役割をはたしています。水を介した伝染病でなくなる人は後を絶ちません。

ロータリーでは発展途上国で、井戸を掘ったり、雨水貯蔵システムを設置するだけでなく、それらの設備を維持する方法を地域の人達に教えてきました。また、汚染された水を飲むことによって、予防可能な病気にかかる人は数百万人に上がるため、衛生設備の

整備にも取り組んでおり、下水や汚染タンクと繋がった水洗トイレを提供すると同時に、手洗いやその他の衛生習慣指導を行うなどして、状況改善に努めています。

清潔な水が手に入るようになることで、子供達は汚れた水でお腹をこわしたり、感染症にかかることもなくなり、健康状態が改善します。石鹸で手を洗うだけでも、下痢性疾患による死亡率を減らす事が出来るほか、肺炎などの急性呼吸器感染症や寄生虫、皮膚病や目の病気にかかる危険性も減らす事ができます。

100年以上前にロータリーが行った初期のプロジェクトのひとつが、公衆トイレの建設でした。

我々ロータリアンは、今後も世界各地の地域に根差した活動を行い、すべての人々がきれいな水を飲むように「水と衛生」改善に取り組んでいかなければならないと思います。